

製品名: ケラチンパンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12984**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	KRT2 KRT2; KRT76; KRT3; KRT5; KRT6A; KRT6B; KRT6C; KRT71; KRT72; KRT73; KRT74; KRT75; KRT79; KRT8; KRT84; Keratin, type II cytoskeletal 2 epidermal; Keratin, type II cytoskeletal 2 oral; Keratin, type II cytoskeletal 3; Keratin, type II cytoskeletal 5;Keratin, type II cytoskeletal 6A; Keratin, type II cytoskeletal 6B; Keratin, type II cytoskeletal 6C; Keratin, type II cytoskeletal 71; Keratin, type II cytoskeletal 72; Keratin, type II cytoskeletal 73; Keratin, type II cytoskeletal 74;
別名	
遺伝子 ID	3849.0
SwissProt ID	P35908

免疫原

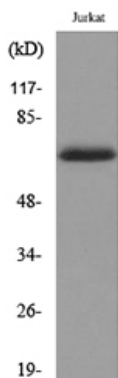
抗血清は、Lys185 の非アセチル化部位周辺のヒトケラチン由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

背景

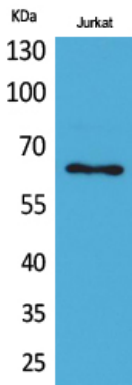
ケラチン 2 (KRT2) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ケラチン遺伝子ファミリーのメンバーです。II 型サイトケラチンは、塩基性または中性タンパク質で構成され、単純および重層上皮組織の分化過程で共発現する異型ケラチン鎖のペアとして配置されています。この II 型サイトケラチンは主に表皮ケラチノサイトの上部有棘層で発現しており、この遺伝子の変異は水疱性先天性魚鱗癬様紅皮症と関連付けられています。II 型サイトケラチンは、染色体 12q12-q13 の領域に密集しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、発生段階: 表皮ケラチノサイトの成熟過程で合成され、胎児皮膚の上部中間細胞に局在します。最も初期の発現は、発生中の胎児の 10 週目に、発生中の指の予定爪床で見られ、13.5 週までに近位爪郭に移動する。12.5 週では、体幹皮膚の中間層の散在細胞で検出される。19.3 週では、頬、体幹、膝の背側と腹側、肘、手の背側の上部中間ケラチノサイトで局所的な発現パターンが観察された。臍周囲の遠位部では陽性細胞数が増加し、15 週までには胎児の毛包の小さな細胞群で発現する。疾患: KRT2 の欠陥は、シーメンス水疱性魚鱗癬 (IBS) [MIM:146800]の原因である。IBS は、出生時から全身性の紅斑と広範な水疱を特徴とする表皮剥離性角化症の一種を示す、まれな常染色体優性皮膚疾患である。数週間後には、大きな暗灰色の角質増殖が観察されます。IBS 患者の皮膚は非常に脆弱で、表皮の外層が剥がれ落ち、局所的に皮膚が剥がれ落ちる傾向があります (脱皮効果)。IBS は通常、加齢とともに改善するため、ほとんどの中年患者では、角質増殖と角質性苔癬化は主要な関節の屈曲部に限定されます。機能: おそらく末端角化に寄与します。ケラチノサイトの活性化、増殖、および角質化に関連しています。その他: 細胞骨格ケラチンとマイクロフィブリルケラチンには、I (酸性; 40-55 kDa) と II (中性から塩基性; 56-70 kDa) の 2 種類があります。オンライン情報: ケラチン-2A エントリ, 類似性: 中間径フィラメントファミリーに属します。サブユニット: 2 つのタイプ I ケラチンと 2 つのタイプ II ケラチンのヘテロ四量体。KRT10 と関連します。組織特異性: 大腿部、乳房乳首、足裏、陰茎幹、腋窩など、ほとんどの部位の正常成人表皮組織の上部有棘層および顆粒状基底上層に発現します。包皮、扁平上皮化生、癌には存在しません。肥厚性瘢痕およびケロイド瘢痕における発現は、最も深い基底上層から始まります。正常な歯肉および舌では弱い発現を示しますが、舌粘膜の良性角化症および軽度から中等度のオルソケラチン化を伴う口腔異形成では発現が誘導されます。、

研究分野

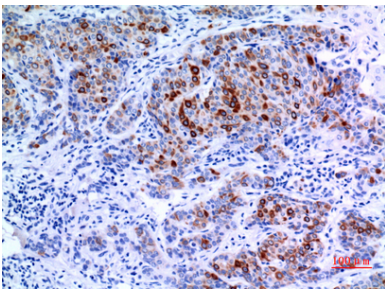
画像データ



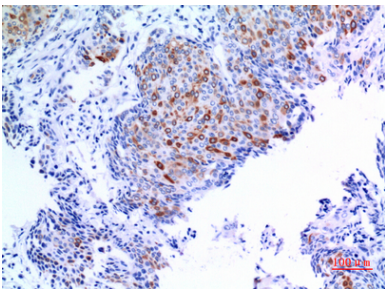
ケラチンパン抗体を使用した、Jurkat 細胞の溶解液のウェスタンブロット分析。



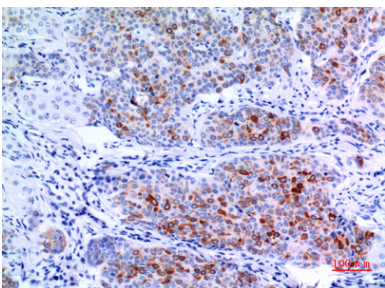
ケラチンパンポリクローナル抗体を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。



パラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された